

大分教育事務所訪問 15

臼杵市立上北小学校から学ぶ



NO.88 2021年6月 臼杵市立上北小学校

**か** **考えて表現**  
思ったことをすぐに発言するのではなく、自分が考えた根拠や、友達の考えとの違いを明確にして表現する。だから、わかりやすい。

学校の教育目標「元気とやる気とやさしさあふれる上北っ子」を育成するために、子ども達には「あいさつ名人、きき方名人、やさしさ名人」をキャッチフレーズとして教職員と子どもが一体となって取り組んでいます。特徴的な取組としては、田んぼ遊び、どろんこ遊び等、地域と共に取り組む田んぼ活動においては、その活動を通してつきたい力を「表現力」と明確に示し、地域や家庭と協働して育てていることです。

学校経営から学ぶ

本校は学校の教育目標を意識させるために、各3つの目標を「言葉」でイメージをさせています。例えば、

- 元気：あいさつ、返事、発表の声、遊び、運動、食べること、生活習慣、健康・・・
- やる気：全力、一生懸命、自主的、主体的、積極的、挑戦的、責任感・・・
- やさしさ：よりよい関わり方、喜び、満足、充実感、自己肯定感、楽しさ、平和を愛する気持ち、大切にされる・・・

今後は、子ども達の行動や姿に対して「今のあいさつは良かった」「一生懸命だね」等、これらの言葉を教職員や保護者が意識して発することや（美点凝視）、子ども達どうしがこのような「言葉」を意識する場を保障する必要があります。そして、そのような活動をとおして「育成を目指す資質・能力」をより焦点化することで（例：言語能力）、より協働的な実践が行われることが期待されます。

また、短期で検証ができる取組指標については、期間を決めて（2週間～1ヶ月）集中して行うことで教職員も子どもも成長を感じることができ、その後は廃止、またはより高い目標を設定する短期PDCAサイクルを回す取組が期待されます。

授業から学ぶ

多くの授業において、自己決定させる場が保証され、交流する場においては共感的人間関係を育む場面がありました。今後は、算数科においては、既習事項に戻るときは一つ前の段階まで（かなり下学年のやり方はやらない）等とし、知識として指導する場面（絶対解）と思考力・判断力・表現力等を育む場面（納得解）を明確にすることで、より充実したグループ学習や全体での協議が行われると思われました。

また、テンポのある授業や子どもに時間を意識させることで、圧倒的な量の問題を解く、圧倒的な量を書く、異学年で学び合う等、小規模校の強みを活かすことで、学力がより定着すると思われました。



NO.89 2021年6月 臼杵市立上北小学校

**み** **認め合い**  
互いに学びあい高めあうためには、まずはお互いの考えを認め合うことから始める。



NO.90 2021年6月 臼杵市立上北小学校

**き** **決まりを守る**  
みんなで決めた「授業の約束」だから、意識をして行うことができる。



NO.91 2021年6月 臼杵市立上北小学校

**た** **たくましさ**  
自分の考えはみんなと違っていても、納得いくまで考える。簡単には流されない。